月草

松岡隆子

秋にはか草樹の影も水音も
八月の晦日の樹下に長居せり
これよりのこと秋蝉のひと頻り
秋蝶の流るるとなく飛ぶとなく
突堤は風視るところ秋の蝶
魚跳ねて厄日過ぎたる水の色
一斉に魚影走れる水の秋

水辺りの日向つめたき蛍草

師の忌来と月草瑠璃を極めけり

秋草の思はぬ丈に囲まるる

夕花野いつまで人を佇たしむる

雨あとの声すき透るつくつくし

今日の晔先生のご命日は朝日カルチャーセンターの講座の日であった。先生が後任の講師として私を推してくださったお陰で今の私があり「栞」があることを思うと感謝の念に堪えない。当初は新米講師の私をはらはらして見ておられたことだろう。今日も心配してそっと見に来てくださったのかもしれない。追悼句会の兼題は「露草」だった。みんなで露草を詠み合い先生を偲んだ。教室の後ろで先生が参観してくださっているような気がして緊張した。「栞」も来年は五周年になる。師恩に報いるべく確かな歩みを重ねていきたい。